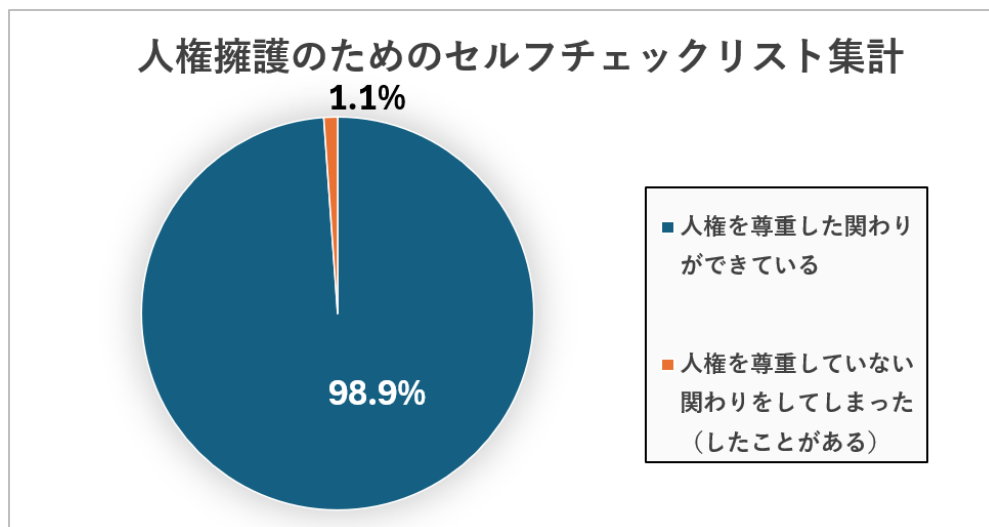


日吉保育所 人権擁護のためのセルフチェックリストの実施結果（令和8年6月実施）
全国保育士会が作成した「保育所・認定こども園における人権擁護のためのセルフチェックリスト
～「子どもを尊重する保育」のために～」を使用しました。



全設問に対して 98.9%が望ましい対応をしていることが分かりました。1.1%の望ましくない対応は主に次の3項目に見られました。

自分から訴えてトイレに行くことができるようになった子どもに対して、「おしっこ出ない」と訴えていても、トイレに行くように促す。

上記の項目につきましては、すぐにトイレへ行くことが難しい散歩や、給食、午睡前など、活動の内容を考えた上で、トイレを促している状況です。子どもたちに理由を伝え、強制ではなく、子どもの気持ちを尊重すること、また、トイレに行くタイミングが一人ひとり異なるため、子どもたちの様子を見ながら対応していくことを職員間で確認しました。

集団行動をするための言葉がけをした際、言葉がけを聞かない子どもに「〇〇しないなら〇〇できないからね」と言葉をかける。

上記の項目につきましては、子どもたちに対して、できるだけ否定的な言葉を使わずに肯定的な言葉がけをすることを確認しています。職員も一人ですべてのことに対応しようとすると、余裕がなくなり、否定的な言葉がけになってしまうこともあるため、職員間で声を掛け合い、職員全員で子どもたちを見守っていくことを確認しました。

寝ずに話をしている子どもに対して、外で寝るように言ったり、布団を友だちの布団と離して敷いたりする。

上記については、早く眠りたい子や体を休めたい子がいるため、できるだけ早く落ち着いた午睡の環境を整える中で、眠れない子に対して声をかけてしまうことがあります。早く眠りたい子がいるように、午睡が必要でない子もいます。そのため、眠れない子に対して、否定的な言葉ではなく、「まだ眠くないならゆっくり休める場所に移ろうか」など、一人ひとりの子どもの状況に合わせた対応や声掛けを行っていくことを確認しました。